

## 評価シート

No.

3

事業所管

教育委員会事務局総務部学校事務支援室・指導部学校指導課

1 事業名	G I G A スクール構想の推進
2 事業期間	令和 3 年 4 月 ～
[ 3 事業実施に至る経過・背景など ]	
<p>(1) 国の G I G A (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想を受け、本市では、令和2年度末までに小・中・小中・総合支援学校の児童生徒1人1台の端末導入や大型提示装置、Webカメラ等のICT機器の配備と、それらに対応した高速大容量ネットワーク環境の整備が全校で完了した。</p> <p>(2) 児童生徒1人1台端末の導入に伴い、学習環境が大きく変化する中、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、新たな教育コンテンツを効果的に活用し、教育の質の向上を図ることは、本市教育にとって喫緊の課題であった。</p> <p>(3) 教員一人一人のICTに係る指導力向上や授業改善、インターネット回線の高速・大容量化等に対応した環境整備の増強やサポート体制の強化など、本構想の着実な実施に向けた取組の一層の実施が必要とされた。</p> <p>(4) 本構想を契機に、学校のICT環境整備の加速化とその効果的な活用を促進する施策を展開することで、子どもたちの学びのより一層の充実を図るとともに、これまで本市が工夫改善を重ねてきた教育実践と新たなICT教育環境の融合を進め、全ての子どもの学力や情報活用能力をはじめとする資質能力の向上に資するICTを活用した教育実践の充実を図る。</p>	
[ 4 事業概要 ]	
<p>(1) 1人1台端末の本格活用元年と位置付け、取組の目安となる時期に応じたステップを示して全校で取組を進めた令和3年度を経て、令和4年度を1人1台端末をより日常的・主体的に活用する「G I G A スクール充実期」と位置づけ、授業支援ソフト等の活用による意見交流や協働学習を通じた授業改善、デジタルドリル等の活用による知識習得や学習習慣の定着を図っている。</p> <p>(2) 令和4年度からは端末の持ち帰りを全学年で可能とし、家庭学習においても各種ソフトを活用しながら、あらゆる場面でICTを活用した取組を推進し、学習活動の更なる充実や校務改善の推進に向けた取組を積極的に進めながら、本市教育の充実を図っている。</p> <p>① 光京都ネットサポートデスク（GIGAスクール運営支援センター）の体制強化の維持 【R3より継続】 ※同センターはヘルプデスクとして学校からのICT全般について質問を受け付けるワンストップ窓口として設置している。</p> <p>② ICT支援員の配置 【R3より継続】 ※ICT機器の操作や校内研修などICT活用に係る日常的な支援業務を行うICT支援員を全校へ配置している。</p> <p>③ 継続的に必要となる環境整備 【R3より継続】 ※児童生徒が安全・安心にインターネットを利用するためのフィルタリング対策、学校内のインターネット回線の高速・大容量化に伴う回線の増強・分散化の維持費等</p> <p>④ 学習支援ソフト等の導入 【R3より継続】 ※授業支援ソフト、デジタルドリル、採点補助ソフトの導入</p>	

## 〔 5 令和 3 年度及び令和 4 年度の実績及び効果〕（別添：参考資料）

## （1）令和 3 年度の実績及び効果

1 人 1 台端末の「本格活用元年」と位置付け、本市の実践指針としてロードマップ（3つのステップ（活用準備期→活用推進期→本格活用期））を学校に示し、基本的な操作の習得や授業支援ソフト等の活用など、学習場面での展開を段階的に進めた。あわせて、ICT活用に係る学校向けのサポート体制を構築し、緊急時における学習保障のためのオンライン授業等の環境を整備するとともに、不登校児童生徒への支援や、障害のある児童生徒への個々に応じた対応など、ICTを活用した効果的な教育実践の充実を図った。

## ①実践例

「活用準備期」：端末へのログイン、文字入力体験など

「活用推進期」：調べ学習や協働学習での端末活用、デジタルドリルの活用など

「本格活用期」：レポート作成、家庭学習での活用（端末の持ち帰り）など

## ②取組の効果

ア 令和4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査より

令和3年度に授業でICT機器をほぼ毎日使用した児童生徒の割合

小学校：京都市 32.4% 全国平均 26.7%

中学校：京都市 29.6% 全国平均 21.6%

イ 令和 3 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査より

・遠隔教育の実施状況(全校種) 京都市76.1% 全国平均71.6%

・教員のICT活用指導力の状況(全校種)

(授業を担当している教員の自己評価で「できる」「ややできる」と回答した教員)

教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 京都市93.8% 全国平均87.5%

授業にICTを活用して指導する能力 京都市85.8% 全国平均75.3%

児童生徒のICT活用を指導する能力 京都市87.1% 全国平均77.3%

情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力 京都市93.6% 全国平均86.0%

※京都市の数字は都道府県別の順位に当てはめると、上記すべての項目で第3位に相当する。

## （2）令和4年度の実績及び効果

① 1 人 1 台端末を授業や家庭学習の様々な場面で日常的・主体的に活用する「G I G A スクール充実期」と位置づけ、授業での意見交流・課題発表に活用できる「授業支援ソフト」や、子どもが自らの習熟度に応じた問題を解きながら、自分自身で目標やペースを決めて学習を調整しながら取り組む「デジタルドリル」などの各種ソフトの活用を進めるとともに、全学年での端末の持ち帰りを可能とし、家庭学習での活用も進めている。

②こうした活用を通して、これまでの教育実践と 1 人 1 台端末の活用を効果的に融合することで、児童生徒の興味関心や習熟度に応じた「個別最適な学び」と、児童生徒が積極的に自分の意見を発表し他人と交流する「協働的な学び」の一体的な充実を図っている。

③また、障害のある児童生徒への、「文字の拡大機能」や「音声読み上げ機能」の活用など個々の障害の状況を踏まえたよりきめ細かな支援や、不登校や別室登校の児童生徒のオンラインでの授業等への参加など、それぞれの状況に応じた誰一人取り残さない学習保障の取組にICTを最大限活用している。

## 6 予算及び決算

(千円)

令和3年度予算		令和3年度決算		令和4年度予算		R4予算-R3決算
事業費	2,147,536	事業費	2,146,982	事業費	726,605	-1,420,377
【財源内訳】		【財源内訳】		【財源内訳】		
特定財源	2,093,387	特定財源	2,126,362	特定財源	701,153	-1,425,209
[ 補助金	7,000 ]	[ 補助金	34,931 ]	[ 補助金	67,000 ]	
[ 臨時交付金	2,086,387 ]	[ 臨時交付金	2,091,431 ]	[ 臨時交付金	580,753 ]	
				[保護者負担金	53,400 ]	
一般財源	54,149	一般財源	20,620	一般財源	25,452	4,832
【内訳】		【内訳】		【内訳】		<備考>
端末の調達	1,101,000	端末の調達	1,097,721	サポート体制の構築	415,000	※令和3年度予算
サポート体制の構築	390,000	サポート体制の構築	423,528	学習支援ソフト	63,030	は補正増減・流用
学習支援ソフト	65,000	学習支援ソフト	44,392	通信回線増強など	248,575	等を含む（予算現
通信回線増強など	591,536	通信環境増強など	581,341	の環境整備		額）
の環境整備		の環境整備				※令和4年度予算
						は当初予算

7 R3決算の不要理由  
(10%以上)

8 R3決算とR4予算の乖離理由  
(±10%以上)


令和３年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校等の緊急時において、より円滑な授業配信等を実現するとともに、授業及び家庭学習において児童生徒１人１台端末をはじめとするＩＣＴ機器の本格活用を開始するため、授業配信時に使用する教員用端末、ＧＩＧＡ端末故障時等の対応に要する予備機等を調達するとともに、保護者面談や外部講師との連絡調整など本市職員・児童生徒以外とのオンライン会議を実施するために必要なライセンス契約を締結したが、令和４年度にはそれらを活用することができるため予算を減額している。

## 〔 9 役割分担評価 〕

公共性	公益性	<input type="checkbox"/> より多くの市民に提供されるサービス（共同消費性） <input checked="" type="checkbox"/> 特定の個人または集団に提供されるサービス（個人消費性）
	必需性	<input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠なサービス（必需） <input type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠でないサービス（選択）
実施主体の妥当性	政策性	<input checked="" type="checkbox"/> 政策的意思決定を必要とするサービス（政策的） <input type="checkbox"/> 経常業務の度合いが高いサービス（経常的）
	行政専門性	<input checked="" type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要とするサービス（行政専門性） <input type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要としないサービス（一般専門性）

3	事業名	G I G A スクール構想の推進
10	令和5年度の方向性	充実（学習支援ソフト等の継続的な導入と更なる効果的な活用に向けた取組により充実に努める）
<b>[11 方向性の考え方（事務事業評価を踏まえて記載）]</b> （１）GIGAスクール構想の充実に向けては、各校を巡回する「ICT支援員」の配置や学校からの困りごとをワンストップで受け付ける「サポートデスク」の設置など、継続的な学校への支援が必要である。また、教育活動の充実に向けて、授業支援ソフト等の活用による意見交流や協働学習を通じた授業改善、デジタルドリル等の活用による知識習得や学習習慣の定着を図るため、各種「学習支援ソフト」を継続して導入し、更なる効果的な活用に向けた取組を推進していく。 （２）日常の授業での活用だけではなく、「ICTによる学習の可能性の拡大は、子どもたちの人権保障の可能性の拡大である」との理念のもと、障害のある子どもや不登校の子どもへの学習支援にも大きな成果を得ていることを踏まえ、今後も国の予算を注視しつつ、事業の継続により、引き続きGIGAスクール構想を踏まえた学習活動の更なる質の向上に努め、誰一人取り残さず、1人1人の子どもを徹底的に大切にする京都市の教育理念の実現を目指す。		
<b>[12 参 考（他都市の状況・事業効果、考慮すべき特殊事情など）]</b> （１）GIGAスクール運営支援センター、ICT支援員等の学校への支援策については、すべての政令指定都市都市で実施している。 （２）国の「学校教育情報化推進計画」（現在策定中）を踏まえ、本市における令和5年度以降のG I G A スクール構想や教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）に関わる取組をまとめた計画を令和4年度中に策定予定。		





# 京都市における G I G A スクールの取組

京都市教育委員会 教育ICT化推進チーム

1



## 1. 取組の経過

2

## 1. 取組の経過

GIGA端末の導入について、保護者にも周知しながら、3つのステップに沿って取組を推進！

### 「本格活用元年」

- Step 1 活用準備期
- Step 2 活用推進期
- Step 3 本格活用期

## 令和3年度は1人1台、GIGA 端末の「本格活用元年」!

GIGAスクール構想 → Global and Innovation Gateway for All  
すべての子どもに個別最適化され、グローバルで創造性を育む学びを実現する構想



京都市では、昨年度末に1人1台端末の整備が完了し、各学校において「活用準備期」「活用推進期」とステップを踏みながら活用を進めています。子どもたちも初めてのGIGA端末の操作に慣れてきたところです。

いよいよ、9月には「本格活用期」を迎えます。GIGA端末を「令和の時代の文房具」として日常的に使い、授業支援ソフトやデジタルドリルなど様々なソフトを学習場面に応じて柔軟に活用することで、一人一人の子どもたちの可能性を引き出すとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に組み合わせながら、より一層質の高い学びの実現を目指します。

### 学校の様子



京都市PTAしんぶん  
(R3.8月号)

### 保護者の方へご協力をお願い

今後、学校と家庭の学びをつなぐため、子どもたちの状況に応じてGIGA端末を、家庭に持ち帰り、家庭学習での活用も進めていきます。子どもたちが安心・安全にGIGA端末を活用できるようにするため、保護者の皆様のご協力をお願いします。

9月には  
本格活用期を  
迎えます!

インターネット閲覧の際、不適切なサイトを見ることができないよう、アクセス制限しています。

1 家庭でのルールを  
お子様と話ししましょう  
「利用時間の制限」や「正しい姿勢」など健康にも配慮した家庭でのルールを話し合ってください。

- 例えば...
- 30分に1回は20秒以上画面から目を離し、遠くを見るなど、目を休ませながら、1時間以内で使う。
  - 目とGIGA端末との距離を30cm以上離して使う。等

2 ご家庭のWi-Fiへ  
接続をお願いします  
Wi-Fi環境がない場合は学校に相談してください。

3 使用状況の把握をお願いします  
学習目的など学校が伝えた用途以外に使わないなどルールを守って使用できているか見させてください。

教育委員会でも不正なソフトウェア侵入防止等のため、閲覧履歴や学習履歴を把握しています。

4 学校の依頼に基づき、  
ご家庭での充電を  
お願いします  
持ち帰った翌日、学校で充電なく使えないよう、ご家庭での充電にご協力をお願いします。

※フル充電費用1円/1回

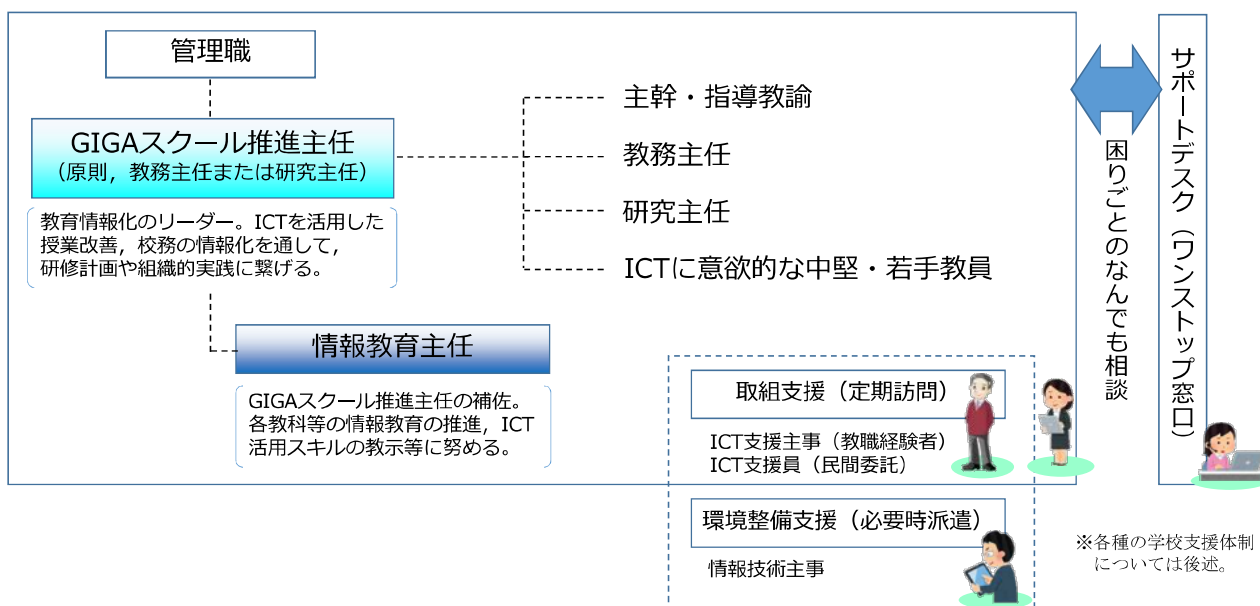
5 ご家庭でGIGA端末の  
話題を共有しましょう  
GIGA端末を大切に扱うよう、お声かけをお願いします。また、GIGA端末を活用した学習を話題にしたり、一緒に考えたりしていただく、子どもの学びへの関心が高まります。

6 破損・紛失の際は、学校に  
すぐに連絡してください  
端末の異常に気づいた場合や、水濡れした場合も、学校にすぐに連絡してください。なお、破損・紛失に故意または重大な過失が認められる場合は、弁償いただくことがあります。

## 1. 取組の経過

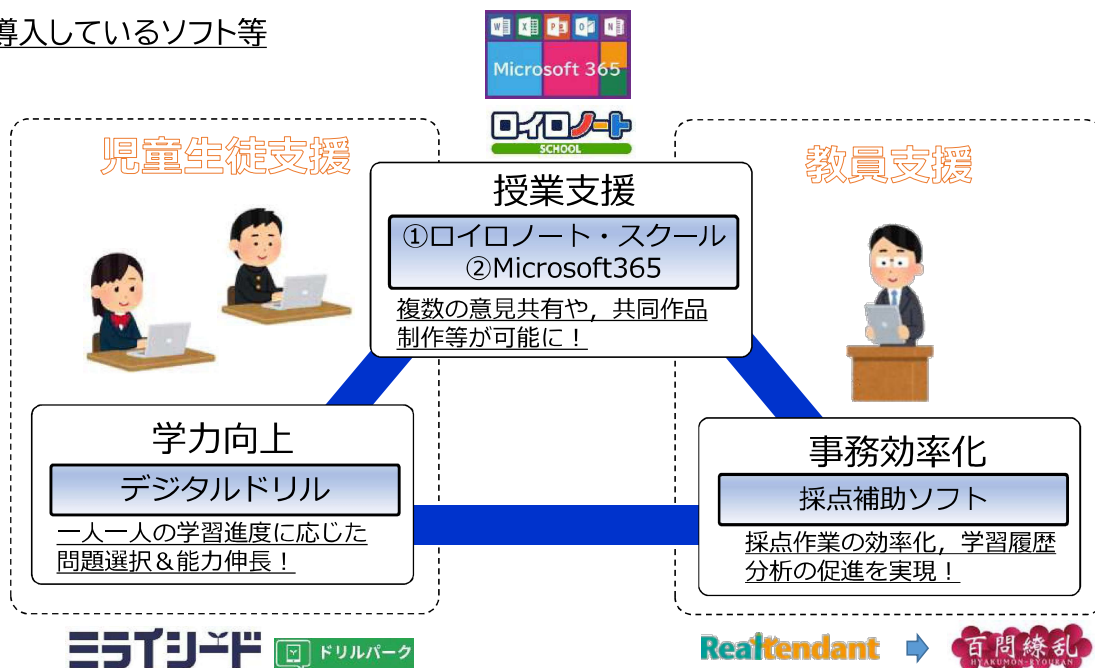
### 教育情報化促進チームを中心とした校内体制

#### 教育情報化促進チーム



## 1. 取組の経過

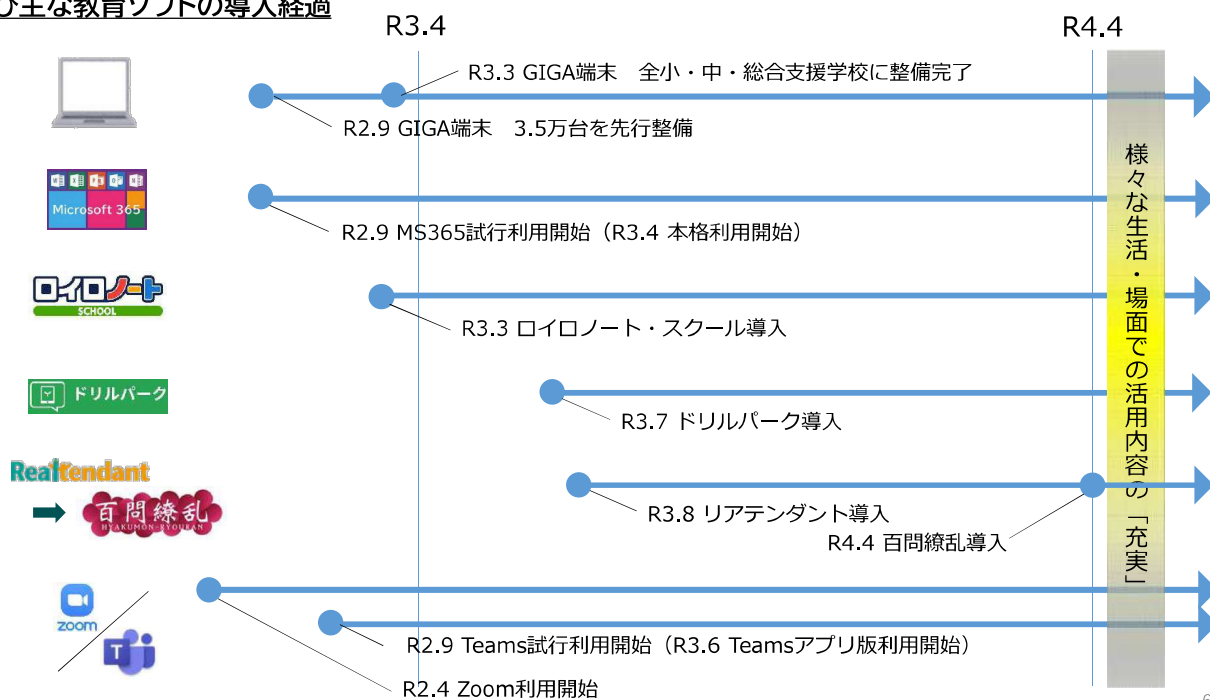
端末に導入しているソフト等



5

## 1. 取組の経過

端末及び主な教育ソフトの導入経過



6

## 1. 取組の経過

### 令和4年度全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙

「5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、  
P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか。」

→「ほぼ毎日」と回答

小学校32.4%（全国平均26.7%） 中学校29.6%（全国平均21.6%）

「学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは  
勉強の役に立つと思いますか」

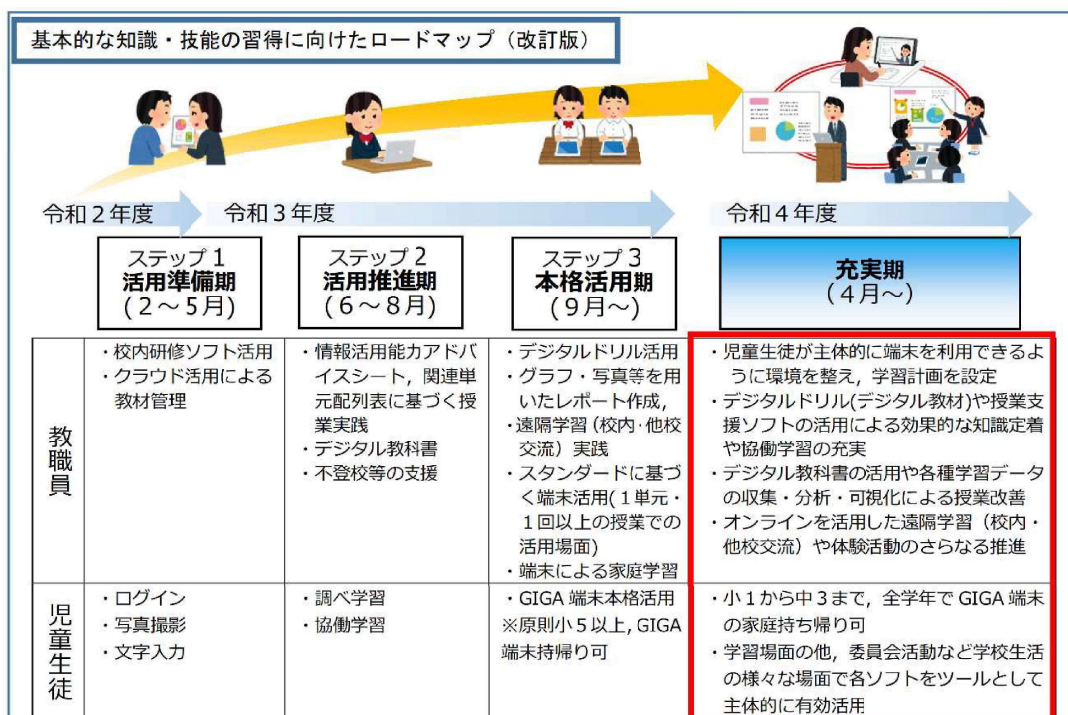
→「役に立つと思う」と回答

小学校66.2%（全国平均65.5%） 中学校55.6%（全国平均56.7%）

令和3年度の時点で、G I G A端末の活用は比較的進んでいたが、  
児童生徒がI C Tの優位性を実感できる効果的な活用には、更なる研究や実践が必要

7

## 1. 取組の経過



8



## 2. 「充実期」の取組

9

### 2. 「充実期」の取組

～令和4年度 GIGAスクール「充実期」～

「一人一人の子どもを徹底的に大切に」教育の更なる充実に向けて

京都市教育委員会  
(教育ICT化推進チーム)

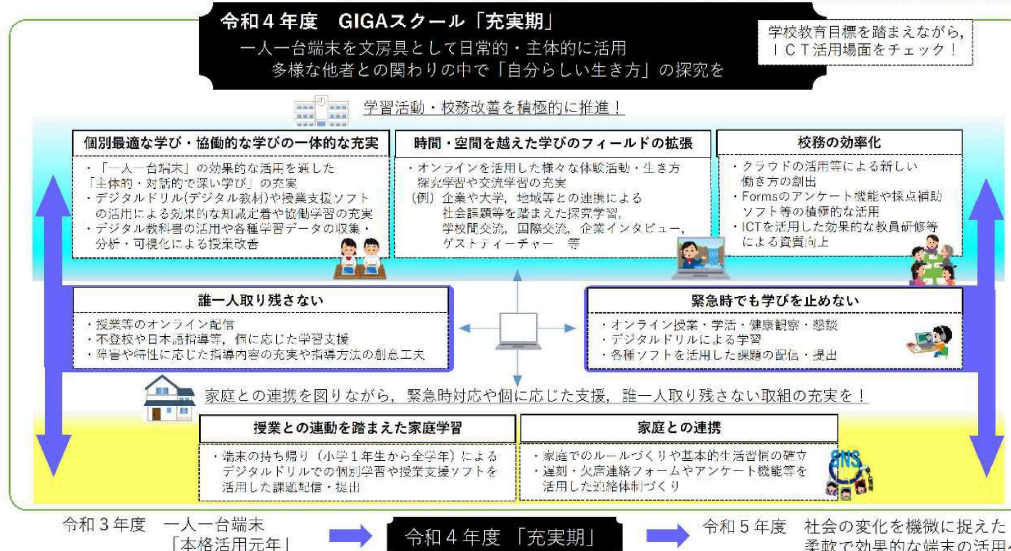
これまでの教育実践  
× 最先端のICT  
ベストミックスで  
子ども・教職員の力を最大限に！

令和4年度 学校教育の重点

目指す子ども像「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

「持続可能でよりよい社会を創造していく主人公」である子どもたちへ

ICTの効果的な活用により、情報活用能力（情報モラルを含む）をはじめとする  
社会的変化を乗り越えるための基盤・土台となる「生きる力」の育成を目指して



10



## 2.「充実期」の取組

### 令和4年度 GIGAスクール「充実期」のポイント

「特別なもの」から「日常的なもの」へ

「教員主導の活用」から「児童生徒主体の活用」へ

「まず、使ってみる」から「効果的に使ってみる」へ

「得意な教員から使ってみる」から  
「学校全体で組織的に使ってみる」へ

11

## 2.「充実期」の取組

### 主な取組①：情報活用能力アドバイスシート

- ・ 4つの発達段階（低学年・中学年・高学年・中学校）に応じて、4分類※19項目の身につけさせたい情報活用能力の目安を示した「情報活用能力アドバイスシート」を作成、提示。  
（※「基本的な操作等」、「問題解決・探究における情報活用」、「プログラミング」、「情報モラル」）
- ・ 各校で、アドバイスシートを参考に、指導に適した各教科等の単元・題材を計画的に設定。

令和4年度 情報活用能力アドバイスシート

学習内容	小学校低学年(ステップ1)	キー よる
基本操作	コンピュータの起動や終了を行う。指やタッチペンで文字や絵をかいたり、五十音順ソフトウェアキーボードで文字を入力したりする。	キー よる
編集と記録	写真や音声、動画の記録を行う。	写真 音
ファイル等の管理	電子ファイルの呼び出しと保存をする。	電子
Web検索	キッズ用検索サイトで、タップして調べたり、五十音順ソフトウェアキーボードを使ってキーボード検索したりする。	検索
オンライン学習	オンライン学習を体験する。	オン
課題の計画・計画	身の回りの疑問や問題に気付き、解決しようと計画を立て	計画

12

## 2.「充実期」の取組

## 主な取組②：ICT活用実践ガイド

- ・各教科等の単元の中で、デジタル教科書や各教育ソフトの具体的な活用場面を示す単元計画書として、『ICT活用実践ガイド』を作成。

小学校：国社算理音図家保外 各学年1 单元ずつ

中学校：国社数理音美保技家外 各学年1 単位ずつ



社会科 第5学年 小単元『自動車をつくる工業』	《教科用指導書/主題は一部加筆・修正等箇所》
<p>2/7時間 本時のねらい 自動車工場の写真や円グラフをもとに、学習問題をつくり、問題解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつ。</p>	<p>子どもの活用ポイント</p>

13

## 2.「充実期」の取組

主な取組③：「情報モラル教材一覧」、「活用型情報モラル教育実施例」

学習型 情報モラル教育

情報活用能力アドバイスシートを基に、  
「情報モラル教材一覧」等を活用して  
児童生徒が情報モラルを学ぶ



## 活用型情報モラル教育

各教科等でGIGA端末を活用する際に、  
活用方法に応じて必要なモラルを  
身につける

## 情報モラル教材一覧

発達段階に応じて、アドバイスシート上の  
情報モラル項目ごとに活用可能な教材を例示

[illegible]

## 活用型情報モラル教育実施例

例) 情報収集 ⇒ 情報の信憑性の確認  
撮影・録画 ⇒ 著作権・肖像権の知識

[illegible]

このほか、有害サイト等のフィルタリングや、夜間のインターネット閲覧制限など、児童生徒の心身に与える影響に配慮した対策を全市で実施

14

## 2.「充実期」の取組

### 主な取組④：良質な授業実践例の全市共有

- ・教職員研修支援サイト（SMART PORTAL）内に、GIGA端末を活用した授業実践例を掲載。  
（令和4年10月現在 124の授業実践例）

*代表的な実践事例パッケージ*					
学校の活用状況を3つのステップに分けています。実態に合わせてどのような活用ができるのか参考にしてください。					
<b>Get!!（習得期）</b> 先生の指示によりGIGA端末を活用 <a href="#">動画を再生（11分）</a> <a href="#">PDFをダウンロード</a>		<b>Choose!!（選択期）</b> 先生の指示によりGIGA端末の活用の仕方を選択 <a href="#">動画を再生（9分）</a> <a href="#">PDFをダウンロード</a>		<b>Move!!（活用期）</b> 児童が主体的に判断し、GIGA端末を活用 <a href="#">動画を再生（11分）</a> <a href="#">PDFをダウンロード</a>	
<b>実践例</b>		<b>実践例</b>		<b>実践例</b>	
小1 算数 かたちづくり	小6 道徳 ブランコ乗りとピエロ	小4 図工 ポーズの秘密	中1 音楽 楽曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう	小2 生活 小さな友達	小6 家庭 任せてね今日の食事

さらに…

#### Microsoft Teamsでの情報共有

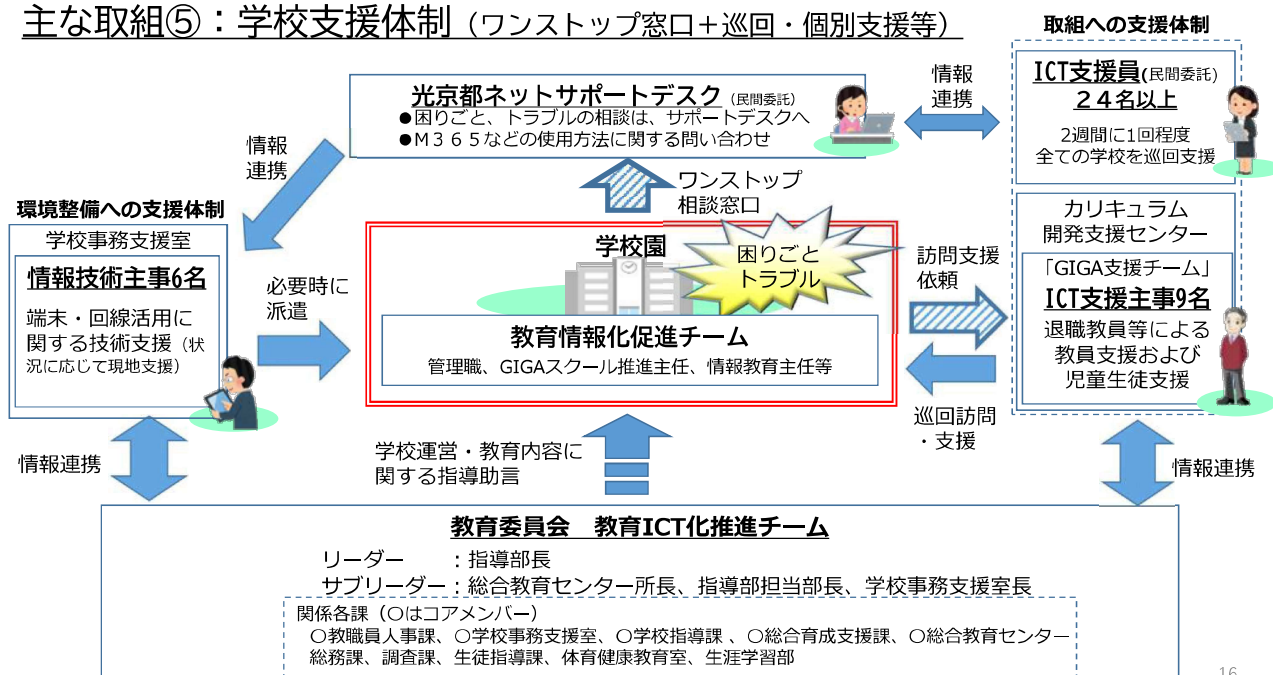
全市のGIGAスクール推進主任が参加するTeam上で、いつでも自由に各校の取組を共有！



15

## 2.「充実期」の取組

### 主な取組⑤：学校支援体制（ワンストップ窓口+巡回・個別支援等）



16

## 2.「充実期」の取組

### 主な取組⑥：GIGA関連情報への容易なアクセス（イントラネット内特設サイト）

The screenshot shows the 'GIGA School Concept' website. The header includes navigation links for 'GIGAの基礎知識', 'FAQ', and 'Wiki'. The main content area is titled 'GIGAスクール構想' and 'お知らせ' (Notice). Three callout boxes highlight key features:

- 【お知らせ】** ソフトのアップデート情報など、様々な情報をタイムリーに発信
- 【研修・資料】** 過去に開催したGIGAスクール推進主任研修の動画・配布資料や、各校の優れた授業実践事例、1～3分のHow to動画などをまとめて掲載
- 【FAQ】** サポートデスクによくある相談に対する対応方法などを掲載

Additional callouts include:

- 【通知】** 過去に市教委から発出したGIGA関連の通知文をいつでも確認できるよう時系列に沿って掲載

17

## 3.誰一人取り残さない



18

### 3. 誰一人取り残さない

#### 緊急時（学級閉鎖や自宅待機等）の対応

##### 《基本方針》

- ・ 新型コロナウイルス感染症に伴う学級閉鎖等の措置を講じる必要が生じた場合の学びの継続・保障は、**原則、GIGA端末を活用したオンライン学習とする。**ただし、対象となる学年や期間等に応じて、従来からのプリント教材等も組み合わせて対応。

○Wi-fi環境がない子どもにはLTE端末を貸与して学習環境を保障

##### ○「学びをつなぐ」学習コンテンツ（まなコン）

- ・ 学級閉鎖時対応や、欠席児童生徒対応、担任不在の代行時対応等に活用できる学習コンテンツ（パワーポイントのスライド）を活用。
- ・ 教科書、指導書の流れに沿った授業構成。  
読み原稿・解説付きで、誰でも活用が可能。

19

### 3. 誰一人取り残さない

#### 障害のある子どもの教育の充実

- ・ 子どもの障害の状況に応じた合理的配慮の下でICTの活用を積極的に推進
- ・ 育成学級及び総合支援学校にはiPadを整備し、多様なアプリケーションを柔軟に活用
- ・ その他、視線入力装置などの機器も必要に応じて配備

##### <取組例>



視線入力装置の活用により、色を塗りたい箇所を注視して点描画を描く活動の様子



事業所見学や実習等の校外での活動のため、経路検索の方法を学び、歩く距離や乗換のしやすさなど自分に合った経路について考える活動の様子



音階のシールを貼ったキーボードと端末をBluetooth接続し、アプリによってピアノ以外の様々な楽器の音に変換して演奏する活動の様子

20



### 3. 誰一人取り残さない

#### 不登校支援

- ・不登校児童生徒への支援として、人との関わりを大切にした対面での支援を中心にしながら、子どもの状態によっては、ICTを効果的に組み合わせたハイブリッド方式での支援を推進

##### 支援の方向性

- ・不登校の子どもに対しては、**人との関わりを広げることが重要。**
- ・しかし、こうした子どもには、対人的な不安や緊張感が高く、人と関わることに躊躇する場合が多い。
- ・そこで、**最初は安心感の持ちやすい緩やかな人間関係を作ることを目指す。**
- ・子どもの不安や緊張感によって、対面での関わりが難しい場合には、ICTを通じた関係づくりが有効（ICTの一般的なメリットである空間的・時間的な制約を越えることができることに加え、**心理的な制約も越える**）

→ 自宅や保健室と教室をオンラインでつなぐ取組を実施することで、子どもの表情に変化が生まれたり、教室に入れるようになるなど成果が出ている

21



## （参考） ICTを活用した様々な取組

22

## スポーツチャレンジ大会

- ・ 大縄跳びなど特定の種目について、指定した期間における全市の成績一覧を、リアルタイムに児童生徒のGIGA端末から確認できる仕組みを構築。
- ・ コロナ禍で指摘される体力低下を解消するための企画として、各校が積極的に参加。



大なわとびの部

大なわ8の字の部

本大会にエントリーする場合は体育健康教育室から通知された文書の手順に従い、ネットで登録を行ってください。  
なお、パスワードを失念した場合は「体育健康教育室・体育担当」にご連絡ください。

スポーツ チャレンジ大会		エントリー欄		部門別 回数		
大なわとびの部						
No	チーム名	所属名	人数	エントリー部門	日付	回数
23	Blue Blacks	京都市立向島東中学校	25	中学校の部	09/20	36
18	たけちゃんず	普羽中学校	21	中学校の部	09/13	29
19	村ちゃんず	普羽中学校	21	中学校の部		18
31	3年男子黄組	京都市立洛北中学校	22	中学校の部	09/29	18
33	3年男子赤組	京都市立洛北中学校	22	中学校の部	09/29	16
30	3年女子赤組	京都市立洛北中学校	20	中学校の部	09/29	14
14	今でしょ！5-1	普羽小学校	14	小学校高学年の部	09/28	14
28	3年女子黄組	京都市立洛北中学校	20	中学校の部	09/29	13
16	片やんず	普羽中学校	21	中学校の部	09/13	13
15	ロープファイヤー5-2	普羽小学校	16	小学校高学年の部	09/12	13
20	ふくc h.	普羽中学校	21	中学校の部		13
29	3年女子緑組	京都市立洛北中学校	20	中学校の部	09/29	12
13	JUMP23	久我の杜小学校	23	小学校高学年の部	09/29	12
17	チーム3くみ	普羽中学校	21	中学校の部	09/13	9
22	桂東カレライス5-2	桂東小学校	29	小学校高学年の部	09/30	8

23

## 歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定

- ・ 京都の優れた文化を守り、次代へ継承していく子どもたちを育むため、平成18年度から全ての小学校5・6年生が「歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定」を受検。
- ・ 令和3年度から、Microsoft Formsの機能を活用してGIGA端末上で検定を実施。



●令和4年度 歴史都市・京都から学ぶ ジュニア京都検定【基礎コース】(配布用)

★京都市立小学校3年生対象です。  
★1問目は、クラスを選んでください。  
★選択肢(せんとくし)を選び、一番下の「送信」をクリックしてください。(全30問)

\* 必須

1 クラスを教えてください。\*

答えの選択

2 戦国時代(せんごくじだい)、家臣(かしん)の明智光秀(あけちみつひで)にせめられて本能寺(ほんのうじ)で自害(じがい)したとされている人物は、次のうちだれでしょう？(1点)

☐ ①徳川家康(とくがわいえやす)

☐ ②織田信長(おだのぶなが)

24